

お知らせ
(経済同時)

平成30年12月13日
産業観光局
商工部伝統産業課
〔TEL 222-3337〕
(公財)京都伝統産業交流センター
〔TEL 762-2670〕

京ものユースコンペティション受賞者決定及び今後の支援について

この度、京都市では現代のライフスタイルに適した「京もの」の作品コンペを通じて、京都の伝統産業に携わる若手人材を発掘して支援する「京ものユースコンペティション」の受賞者を、下記のとおり決定しましたので、お知らせします。

受賞者の選考に当たっては、伝統技術をしっかりと守りつつ、従来の発想に捉われない独創的なアイデアや本人の将来性に着目して、国内外で活躍中のメディアや流通、販売の第一線で活躍されている審査員が審査を行い、受賞者を決定したものです。

受賞者に対しては、首都圏や京都市内で発表の機会を提供するとともに、審査員からのアドバイス等を通じて、現代のライフスタイルに溶け込むマーケットニーズを汲み取った、売れる「京もの」づくりや、販路開拓につながるネットワークづくりなど、積極的に支援していきます。

また、雑誌「Discover Japan」2月号に受賞者が掲載されますので、是非御覧ください。

記

1 受賞作品及び受賞者について

(1) グランプリ

【氏名】大西 里枝 (おおにし りえ) 28歳

【作品名】扇ルームフレグランスかざ (おうぎ るーむふれぐらんす かざ)

香りを保つ力が高い「扇骨 (せんこつ)」（扇子の骨の部分）の特性と、京扇子の加工技術を活かした新しいルームフレグランス。

容器に京焼・清水焼、芳香剤も京都の香料製造企業に製造を依頼し、売上げの一部を扇骨の加工職人の育成に充て、後継者育成にも励んでいる。

【活用した伝統産業技術】京扇子



(2) 準グランプリ【2名】

【氏名】 小川 文子 (おがわ あやこ) 29歳

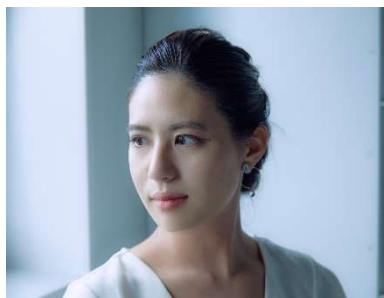
【作品名】 金彩寿夫婦装身具

(きんさいことぶきめおとそうしんぐ)

結婚式や婚礼パーティで新郎新婦が身に付ける装身具一式。

モチーフは白いアネモネで「真実・真心・期待・希望」の花言葉の願いを込めた。

【活用した伝統産業品目】 京焼・清水焼



【氏名】 眞鍋 沙智 (まなべ さち) 33歳

【作品名】 tint hydrangea pierce L

tint は「色を纏う」をコンセプトにして作られたアクセサリーシリーズ。

着物の制作を行う上で磨いてきた色彩感覚を生かし、繊細なモチーフを一つずつ丁寧に染めている。Hydrangea とはあじさいの意。

【活用した伝統産業品目】 京友禅



2 受賞者に対する特典、支援について

今後も継続して審査員からのアドバイス等を通して、現代のライフスタイルに溶け込む、売れる「京もの」づくりを支援します。

(1) 賞金 グランプリ【1名】10万円、準グランプリ【2名】5万円

(2) 展示販売の場及び情報発信ツールの提供 (予定を含む)

ア 雑誌「Discover Japan」※¹2月号(1月5日発売)への掲載

イ aeru※²直営店『aeru meguro』(東京)『aeru gojo』(京都)での展示会の開催

ウ 首都圏のホテル等での展示及び販売

※1 雑誌「Discover Japan」について

「日本を知りたい」という想いにこたえる、日本の入門書。

日本の再発見を通して、日本を元気にすることを目指し、伝統工芸、伝統芸能、食文化、風土など日本人が忘れてきている豊かな文化の魅力を時流に即した切り口で、現代人が楽しめるエンターテインメントとして発信し続けている。

※2 “0から6歳の伝統ブランドaeru”について

aeruは、『日本の伝統を次世代につなぎたい』という想いから誕生したブランドで、伝統や先人の智慧(ちえ)と、現代を生きる私たちの感性を和えた、オリジナル商品を日本全国の職人とともに作り、展開している。

<参考> 応募概要

(1) テーマ: 「新たな伝統」

これまで培ってきた技術や素材を新たな視点で活かしながら現代の「衣食住」、「遊」、「祝」、「旅」など生活の様々なシーンで使えるもの

(2) 募集期間: 平成30年9月1日(土)~10月31日(水)

(3) 応募者数: 12名

(4) 応募業種: 京焼・清水焼(4), 京漆器(3), 京友禅(1), 京表具(1), 京扇子(1), 花かんざし(1), 茶筒(1) ※()内は応募者数

(5) 選定委員(50音順)

金谷 勉 (CEMENT PRODUCE DESIGN 代表)

有限会社セメントプロデュースデザイン代表取締役。京都精華大学人文学部卒業後、企画制作会社、広告制作会社を経て1999年「CEMENT PRODUCE DESIGN」設立。Francfranc との商品企画開発、UNIQLO「企業コラボレーション T シャツプロジェクト」KOKUYO コンセプトショップ「コクヨハク」などのプロデュースを手がける。流通も見据えた形での各地の中小の地域事業者とのデザイン協業事業は、「ガイアの夜明け」や「NHK WORLD」で取り上げられた。2013年鯖江との協業商品 Sabae mimikaki [鯖江みみかき] が GOOD DESIGN AWARD 2013 を受賞。



佐藤 美加 (rooms プロデューサー)



小売の販売、バイヤーを経て展示会事業スタート。

装苑賞内 rooms 賞をはじめとした審査員、また各種セミナー、シンポジウムで講師をつとめる。震災後始めた地場産業活性化プロジェクトでは、福島県の県産品のプロデュースを皮切りに、様々な地方自治体、職人と協業を展開。

商品開発、アドバイザーなど「売る事」を得意とする独自のプロデュースも多数実施。

島田 昭彦 (株式会社 クリップ代表)

京都市中京区生まれ、実家は代々紋章工芸職人。文藝春秋スポーツ総合誌『Number』編集部にて10年在籍。「おもてなしを世界語に」をモットーに、京都・東京・海外での生活・観光などでの経験を活かして、2002年より京都の魅力を世界に、世界の方を京都に招致するため、自ら国内外の多数のメディアに出演し、情報発信を行っている。2005年総合企画会社 株式会社クリップを設立。全国世界の方にお茶を楽しんでいただく『IYEMON SALON KYOTO』を企画プロデュースする他、2011年には京友禅をパリコレクションに出展。



高橋 俊宏 (株)ディスカバー・ジャパン Discover Japan プロデューサー)



岡山県生まれ。建築やインテリア、デザイン系のムックや書籍など幅広いジャンルの出版を手掛ける。

2008年に「日本の魅力、再発見」をテーマにした雑誌「Discover Japan」を創刊。雑誌を通して地方活性の活動にも積極的に関わる。高岡クラフトコンペティション審査員、場所文化フォーラム理事、高山市観光経済アドバイザー、地域ブランディング協会 代表理事。

矢島 里佳 (株式会社「和える」代表取締役)

職人と伝統の魅力に惹かれ、19歳の頃から全国を回り、大学時代に日本の伝統文化・産業の情報発信の仕事始める。大学4年時の2011年3月、「日本の伝統を次世代につなぐ」株式会社和えるを創業、慶應義塾大学法学部政治学科卒業。日本全国の職人と共にオリジナル商品を生み出す“0から6歳の伝統ブランド aeru”を立ち上げ、東京・京都に直営店を出店。その他、日本の伝統を暮らしの中で活かしながら次世代につなぐ様々な事業を展開。



※受賞者の作品写真を掲載いただける場合は、伝統産業課（222-3337）から提供しますので、お問合せください。